

# EU Indicators

発表日: 2019年6月4日(火)

## 欧州経済指標コメント: 5月ユーロ圏消費者物価

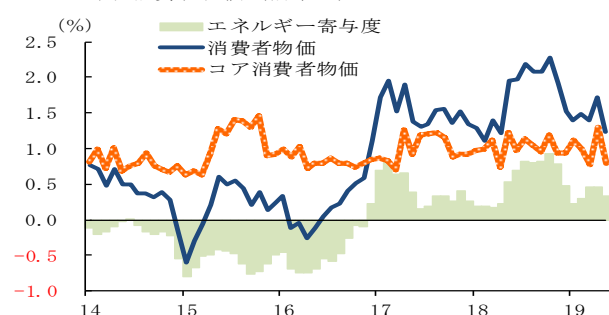
～デysinフレの足音再び～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

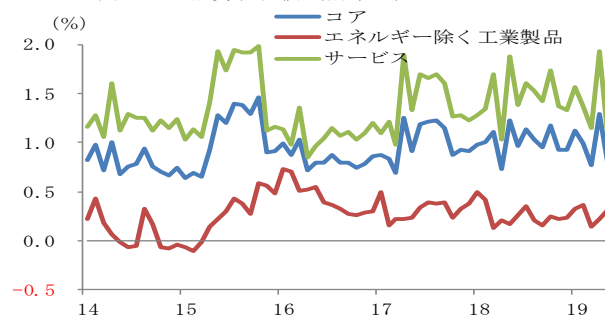
- ユーロ圏の消費者物価の5月速報値は前年比+1.2%と前月(同+1.7%)から大きく鈍化した。主因はイースター休暇時期のズレとエネルギー価格の反動の2点。前年のイースター・サンデーが4月1日で、イースター休暇が3月と4月を跨いだのに対し、今年のイースター・サンデーは4月21日で、イースター休暇が4月に集中した。これを反映した航空運賃の上振れ解消(3月: 同▲4.5%→4月: 同+6.8%、5月値は速報段階では非公表)により、コア物価が前月の同+1.3%から今月の同+0.8%に急ブレーキが掛かった。また、前年の4・5月に前年比でみたエネルギー価格の上昇率に断層が生じており(4月: 同+2.6%→5月: 同+6.2%)、今月はエネルギー価格の上昇率が同+5.3%→同+3.8%に鈍化した。
- コア物価の細かい内訳は18日の確報値で発表されるが、前述の航空運賃の上振れ剥落に加えて、全般に物価の足取りは鈍いものと推測される。速報段階で発表されるエネルギーを除く工業製品価格は前月から僅かに加速したものの、同+0.3%と緩やかな推移にとどまった。このところの賃金上昇率の加速にもかかわらず、サービス価格の明確な加速は確認できない(今月の上昇率鈍化は前述の航空運賃が影響した模様)。原油先物価格は4月末をピークに下落に転じ、世界的な景気減速懸念から足元で一段と下落傾向が加速している。このまま原油価格の低迷が続けば、向こう数ヶ月の間にエネルギー価格は消費者物価の押し下げ要因に転じる可能性が高い。デysinフレ基調の高まりを受け、6日のECB理事会後も追加緩和期待が高まりやすい状況が続こう。

■ユーロ圏: 消費者物価 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く  
出所: Eurostat

■ユーロ圏: コア消費者物価 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く  
出所: Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価 (%)

	2018				2019									
	2Q	3Q	4Q	1Q	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
消費者物価 (前期比)	0.6	0.5	0.3	-0.0	0.2	0.2	0.0	-0.3	0.0	0.2	0.1	0.4	0.1	
消費者物価 (前年比)	1.7	2.1	1.9	1.4	2.1	2.3	1.9	1.5	1.4	1.5	1.4	1.7	1.2	
コア消費者物価 (前期比)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	0.9	0.9	1.1	1.0	0.8	1.3	0.8	
食料/アルコール/たばこ (前年比)	2.6	2.5	2.0	2.0	2.6	2.2	1.9	1.8	1.8	2.3	1.8	1.5	1.6	
食料 (前年比)	2.1	2.0	1.4	1.5	2.1	1.6	1.3	1.2	1.3	1.8	1.3	1.1	-	
アルコール (前年比)	2.2	2.5	2.5	1.9	2.6	2.6	2.7	2.2	1.9	2.0	1.9	1.3	-	
たばこ (前年比)	6.0	5.8	5.4	4.9	5.7	5.7	5.4	5.0	5.0	5.3	4.5	4.1	-	
エネルギー (前年比)	5.6	9.5	8.4	3.9	9.6	10.8	9.1	5.5	2.7	3.6	5.3	5.3	3.8	

注: 消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。